

# ふれあい

URL <http://www.tkgh.jp>  
E-mail general@tkgh.jp

発行所 総合病院 土浦協同病院 発行人 家坂 義人  
〒300-0053 茨城県土浦市真鍋新町11-7 TEL029-823-3111



茨城県那珂市「ひまわり」撮影者：香取 逸美

## 外来化学療法室を増床しました

外来化学療法室運営委員会 委員長 血液内科 清水 誠一

がん治療の3本柱はいうまでもなく、外科的（内視鏡的）治療、放射線療法、そして抗がん剤を用いる化学療法です。多くの化学療法は、単回の投与で終了するものではなく、最大の効果を得るために、あるいはその効果を維持させるために長期間反復して投与することが求められます。従って、外来においても安全で確実な化学療法が行えなくてはなりません。そのためのスペースが外来化学療法室です。

当院では、2006年（平成18年）11月に8床で稼働を開始しました。当初は月200件程度の化学療法件数でしたが、2012年9月には月400件程度に増加しています。化学療法件数の増加に伴い、化学療法室で受療できないまたは長時間お待たせしてしまうことが常態化しております。誠に申し訳ございません。この状態を改善すべく、9月末に外来化学療法室を拡張し3床増床しました。これにより、「待機児童」ならぬ「待機患者様」の減少につながればと考えております。今後とも外来化学療法室を宜しくお願ひいたします。



# 市販薬と処方せん薬 (病院でもらう薬)

薬剤部 椿 浩之

かぜの流行的季節になってきました。テレビではかぜ薬のコマーシャルが多く見られ、「かぜのひきはじめには」とか「かぜに速攻」などキャッチコピーが並びます。今回お話しする内容は、ドラッグストアで買える薬と病院で医師が処方する薬の違いです。

市販薬と処方せん薬の違いは、既製品とオーダーメイドの服のような関係です。既製品は店員のアドバイスを受けながら自分で選びます。デザインもサイズも、「ピッタリ!」というわけには、なかなかいきませんね。しかし、オーダーメイドの服では裁縫師が生地を選び、デザインから採寸までしているため、「ピッタリ!」ですね。市販薬は、既製品の服のように、すべての症状に対応することはできません。市販薬の目的は、病気が軽い場合や初期のいろいろな症状を改善することです。今流行りの言葉を使えば、セルフメディケーション(自分の健康を管理し、軽症の病気やけがは自分で治療すること)を目的としての使用する薬のことです。定められた用法・用量や注意事項を守れば、自分の判断で使用しても安全が保たれます。それに対して病院でもらう薬は、医師が患者様の症状を聞き、病気を診断し早く治るように、薬を選んだり、組み合わせたり、日数を決めたり、飲み方や使い方を工夫することにより、症状に「ピッタリ!」合った薬を処方しています。自分の判断で薬の量を増やしたり、減らしたり、途中で止めたり出来ない理由がここにあります。

## 市販薬

- ・セルフメディケーション
- ・軽い病気や初期症状の改善

## 処方箋薬

- ・医師の診断により
- ・病気にぴったり合ったお薬



食物の  
ちから

## 栄養部だより

管理栄養士 中島 みどり

当院のお米は「茨城県産コシヒカリ」を使用していますが、9月中旬から新米に変わりました。新米の特徴は、上手に炊けない、ベタッとしてしまうなどマイナスイメージもありますが、水分が多く、色艶も良く、栄養価が高いのが特徴です。噛めば噛むほど、新米の香りと甘味が増して飯の本当のおいしさがわかります。炊きたてご飯のおいしい季節…当院の病院食にも、栗ご飯やきのこご飯などのメニューが登場します。今しか味わえない旬のお米をお楽しみ下さい。



# 土浦市消防本部主催 多数傷病者訓練に参加して

土浦協同病院DMAT調整員 齋藤 敏之(医事課)

DMAT (Disaster Medical Assistance Team) とは、「災害急性期に活動できる、機動力のある、専門のトレーニングを受けた、医療チーム」をいいます。先の大震災でも、全国から多くのDMATが災害地域に派遣されました。

土浦協同病院DMATも、9月24日に土浦市民会館駐車場にて土浦消防の協力のもと、「多数傷病者訓練」に参加してきました。訓練概要は、車の多重事故。それに伴って傷病者が20名発生したという状況。土浦協同病院DMATの主な活動内容は、救護所でのトリアージ及び、傷病者の搬出の緊急度の判断。消防隊の素晴らしい連携のおかげで、訓練とはいえ迅速な行動が出来ました。しかしながら、消防の役割とDMATの役割について双方の理解が不十分なところもあり、今後の課題に挙げられるかと思います。

地域の消防隊との連携を深めておくことは重要なことであるため、今回のような訓練は大変意義のあるものとなりました。

今後もこのような訓練を積んで災害発生時に迅速に対応できる準備をしていきたいと思います。

参加者 医 師:山崎 裕一朗(麻酔科) 調整員:芹沢 翼(庶務課) 齋藤 敏之(医事課)



土浦協同病院DMAT 医 師 山崎 裕一朗(麻酔科) 関谷 芳明(麻酔科)  
看護師 横田 純江 遠藤 和子 小沼 未央 力石 美和  
大久保純子 井川 洋子  
調整員 芹沢 翼(庶務課) 齋藤 敏之(医事課)

